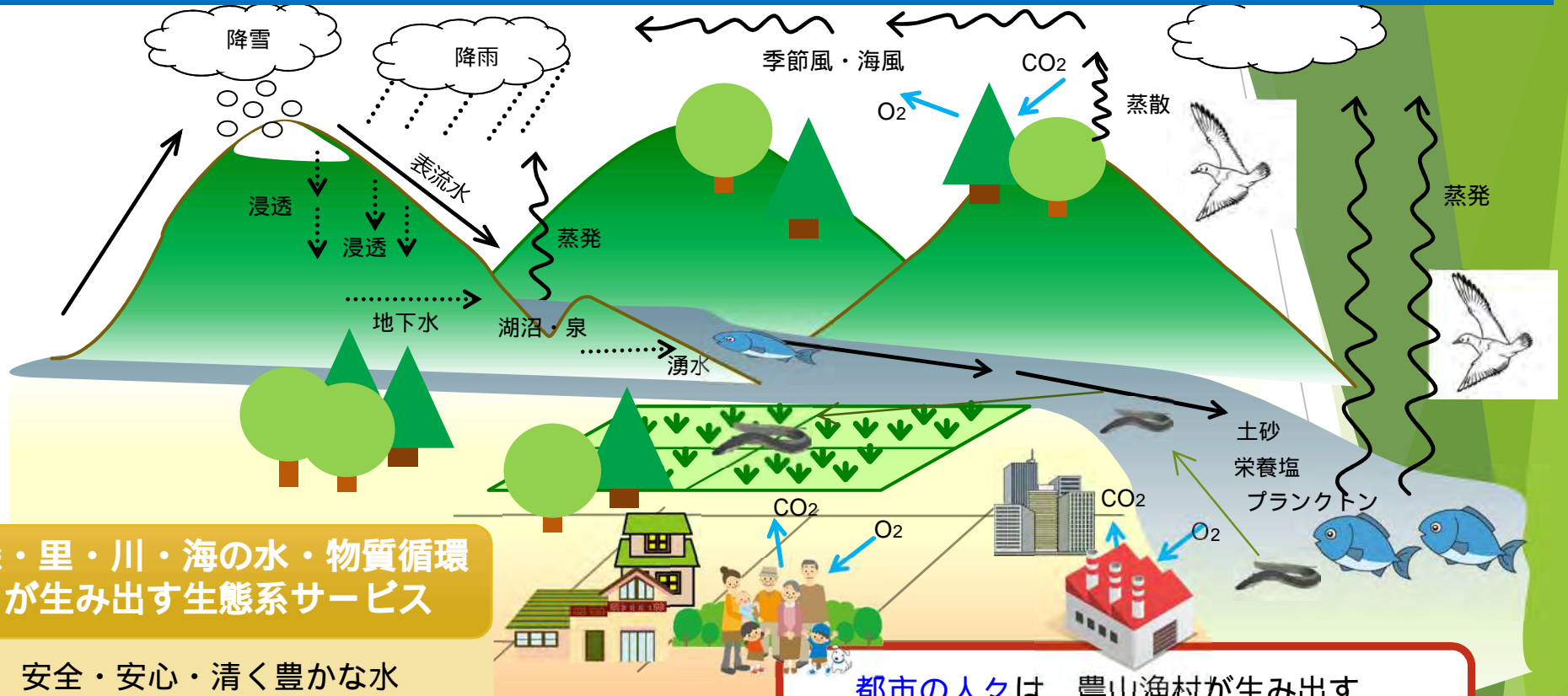




山の恩恵に感謝する

森里川海の循環が生ま出す恵み



森・里・川・海の水・物質循環が生ま出す生態系サービス

安全・安心・清く豊かな水
 清浄な空気・土壌の保全
 安全で美味しい食糧
 バイオマス
 地域特産品
 地域の自然に根ざした文化
 災害防止
 レクリエーション

都市の人々は、農山漁村が生ま出すこれらの恵みを受けてくらししている。



生物多様性とは？ ～ 3つの多様性～

生態系の多様性

干潟 サンゴ礁
森林 草原
湿原 河川 など



種(種間)の多様性

地球上の推定生物種数
500万～3000万種
(IUCN 2008 レッドリスト
公表時資料による)



種内(遺伝)の多様性

(例) サクラソウ
遺伝的に複数の
地域集団が存在



(例) アサリの貝殻
貝殻の色や模様
は千差万別



地域に固有の自然があり、それぞれに特有のいきものがいること
そして、それぞれがつながっていること

生物多様性による恵み(生態系サービス)

生態系が提供してくれる「4つのサービス」 ~生態系サービス~

供給サービス

食糧、水、木材、
繊維、燃料 など



調整サービス

気候調整、水質
保全、病害虫抑制、
防災・減災 など



文化的サービス

精神的充足、美的楽
しみ、レクリエーション、教
育的效果 など



基盤サービス

光合成(酸素と有
機物の生成)、土壌
形成 など



人類生存の基盤

生態系サービスから受ける人間の福利

豊かな生活を支える物質(食糧、住居、衣料など)

健康(清浄な大気や水、健全な自然環境など)

安全(防災、資源供給など) 他



わが国の「生物多様性の4つの危機」

1 開発など人間活動による危機

森林伐採、乱獲など人が引き起こす負の要因による影響

2 自然に対する働きかけの縮小による危機

人手によって維持されてきた里地里山の管理不足、鳥獣による被害の深刻化

3 人間により持ち込まれたものによる危機

外来種など人間により外部から持ち込まれたものによる影響

4 地球環境の変化による危機

地球温暖化、巨大台風の頻度の増加などの気候変動など地球環境の変化による影響

わが国の「生物多様性の4つの危機」

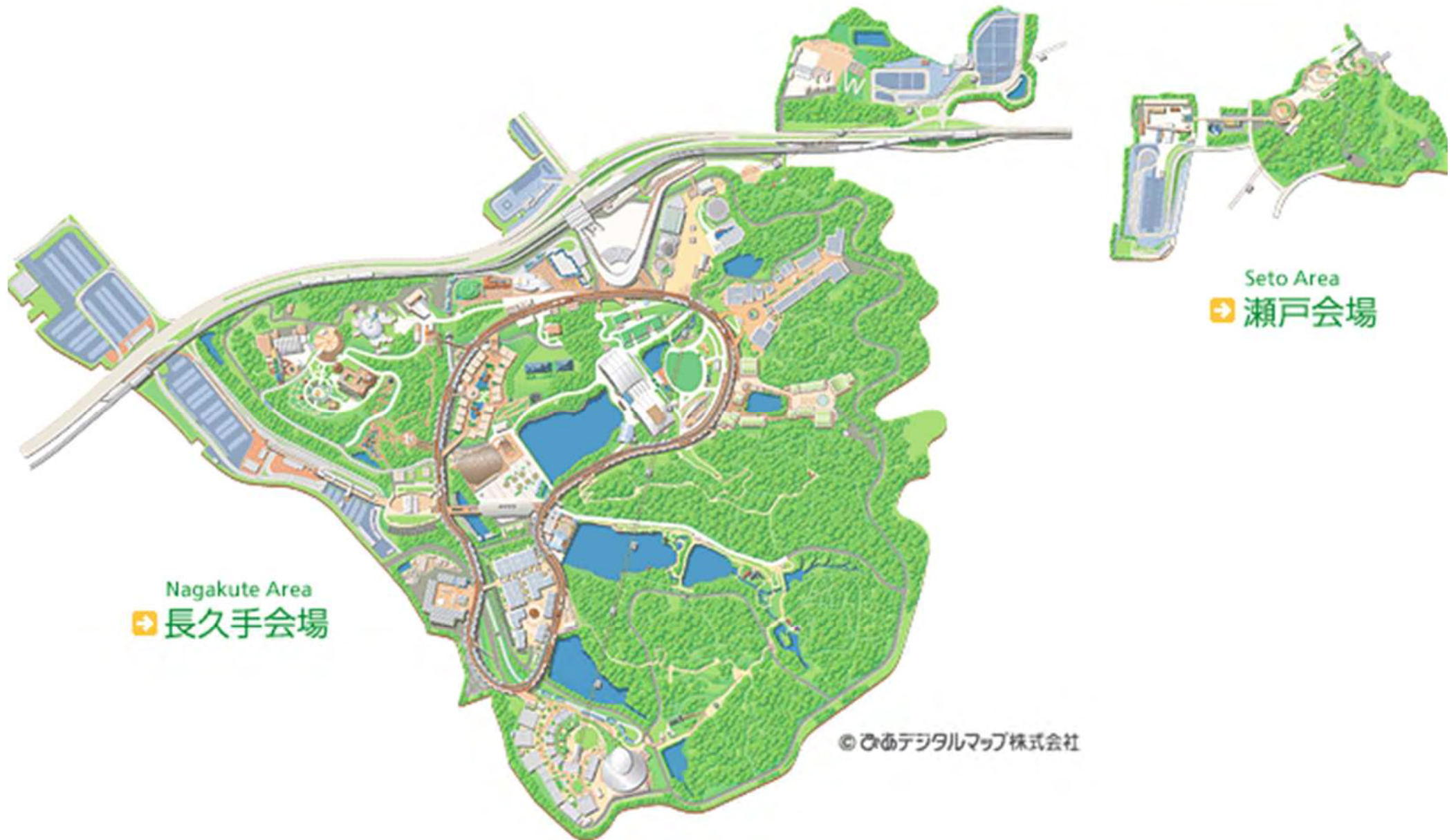
1 開発など人間活動 による危機

森林伐採、乱獲など人が引き
起こす負の要因による影響

藤前干潟埋立事業



2005年日本国際博覧会(愛知万博)



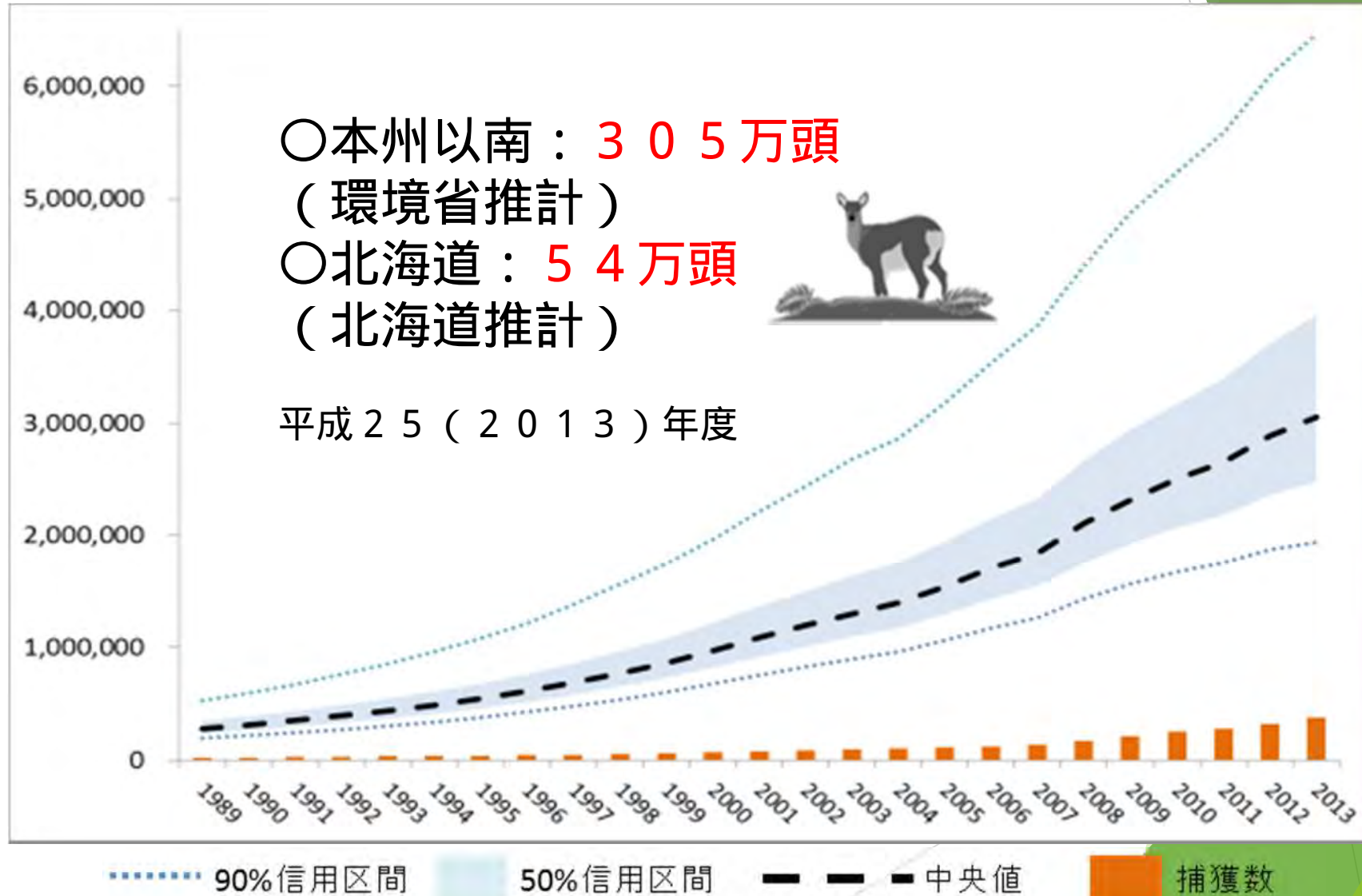
わが国の「生物多様性の4つの危機」

2 自然に対する働きかけの縮小による危機

人手によって維持されてきた
里地里山の管理不足、鳥獣に
よる被害の深刻化

鳥獣の管理

■ ニホンジカの個体数推定結果

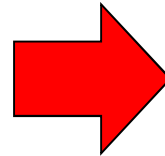


生態系への影響

- 樹皮剥ぎによる樹木の枯死
- 植生の変化、生態系の単純化

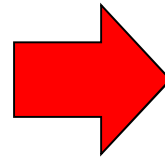


2002年



2008年

わずか数年で
風景が激変



写真：高知県鳥獣対策課提供

北ア南部でシカ初撮影

中信森林管理署 侵入を裏付け



北ア西穂高岳の稜線近くに設置した自動撮影カメラが捉えたニホンジカ＝10月2日午後5時19分、中信森林管理署提供

植物への影響懸念対

中部森林管理局中信森林管理署（松本市）は5日、北アルにした自動撮影カメラで、ニホンジカの撮影に成功したと発表。撮影されているが、上高地を含む南部では初めて。同管理署は、ニホンジカ対策を検討する。カメラを増やして今

わが国の「生物多様性の4つの危機」

3 人間により持ち込まれたものによる危機

外来種など人間により外部から持ち込まれたものによる影響

カルタヘナ法

カルタヘナ議定書及びカルタヘナ法

- 生物の多様性に関する条約のバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書が平成12年1月に採択。
- カルタヘナ議定書は、遺伝子組換え生物（例：農作物、微生物、ウイルス）による生物多様性への悪影響を防止するための措置として、締約国に対し主に以下の措置の実施を求めている。
 - ・ 遺伝子組換え生物の輸出入に係る事前通告及び同意の手続
 - ・ 輸入時等における遺伝子組換え生物によるリスクの評価及び締約国内におけるリスクの管理
- 平成15年9月発効。我が国は平成15年11月に締結。
- 我が国は、同議定書の担保法として、遺伝子組換え生物を作成又は輸入して使用・栽培等する場合の事前承認制度等を内容とするカルタヘナ法を平成15年に制定。

[参考] 遺伝子組換え生物による生物多様性への悪影響の例

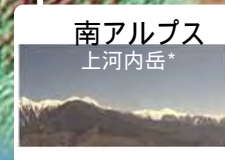
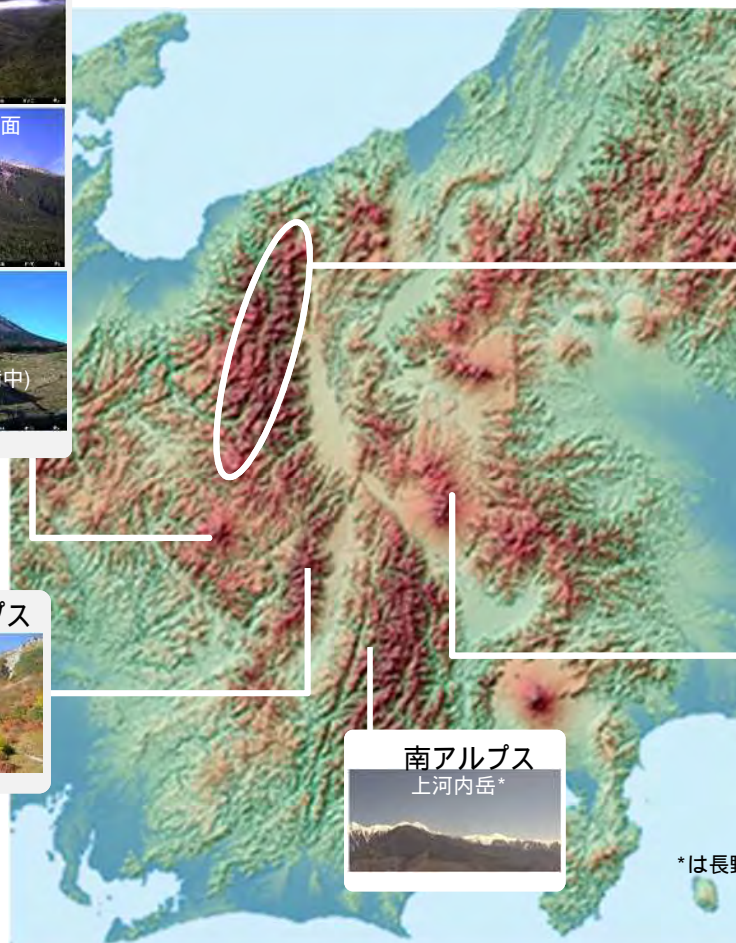


わが国の「生物多様性の4つの危機」

4 地球環境の変化による危機

地球温暖化、巨大台風の頻度の増加などの気候変動など地球環境の変化による影響

国立環境研究所 モニタリングサイトの分布2016.11



*は長野県庁、長野県環境保全研究所との共同実施

2016年11月現在、26箇所でのモニタリングを実施、23箇所を公開

観測カメラの設置状況



立山(室堂山荘)



利尻山(鬼脇中学校)



爺ヶ岳(種池山荘)



薬師岳方面(槍ヶ岳山荘)



槍ヶ岳(ヒュッテ西岳)



槍・穂高連峰(蝶ヶ岳ヒュッテ)



御嶽山(女人堂)



乗鞍岳(乗鞍観測所)

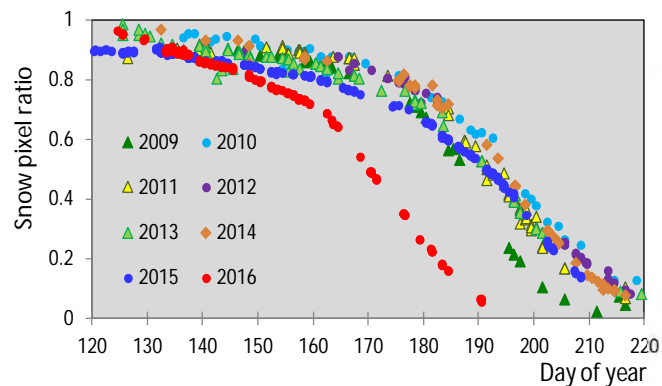
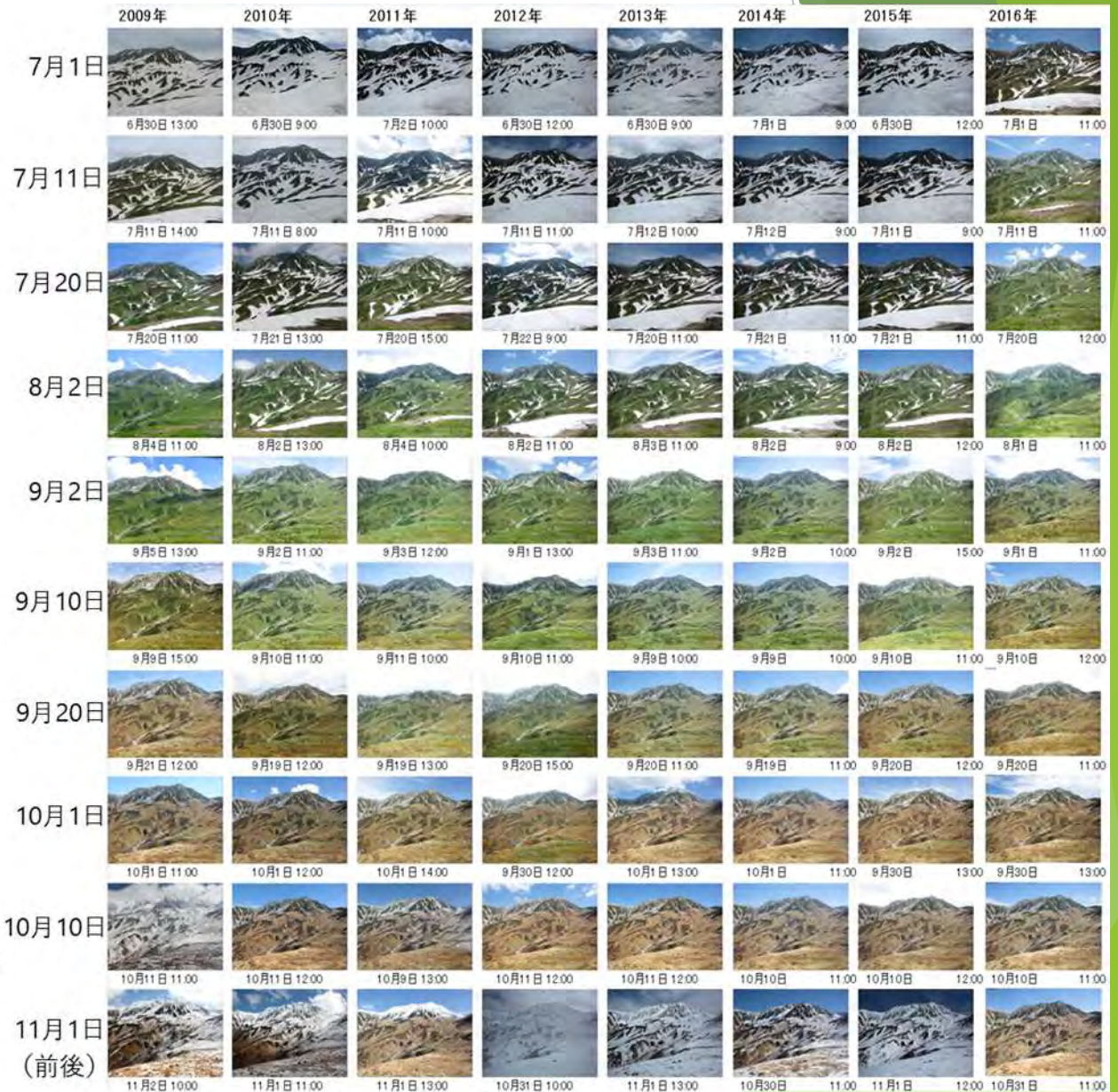


極楽平(千畳敷駅)

立山8年間の変遷



富山県の立山(西斜面)は
8年間継続して観測を実施



斜面全体に占める積雪画素の割合の
季節変化
2016年は特に消雪が早い





SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発のための2030アジェンダ

< 概要 >

- ▶ 中核は、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : 17の分野ごとの目標) と、169のターゲット
- ▶ 17ゴール・169ターゲットを踏まえつつ、各国政府が国家目標を定め、国家戦略等に反映していくことを想定
- ▶ 平成28年1月より効力を発し、2030年までの15年間のアジェンダ
- ▶ 各国・地域・地球規模での実施が必要
- ▶ 各レベルでのフォローアップが必要
- ▶ ゴール・ターゲットが叙述的・究極的

SDGsの17ゴール

少なくとも環境に関連している下線の12ゴールに係る施策を通じた、
17ゴールの同時達成

1. 貧困の撲滅
2. 飢餓撲滅、食料安全保障
3. 健康・福祉
4. 万人への質の高い教育、生涯学習
5. ジェンダー平等、女性の能力強化
6. 水・衛生の利用可能性
7. エネルギーへのアクセス
8. 包摂的で持続可能な経済成長、雇用
9. 強靭なインフラ、工業化・イノベーション
10. 国内と国家間の不平等削減
11. 持続可能な都市
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動への対処
14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な使用
15. 陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、
生物多様性
16. 平和で包摂的な社会の促進
17. 実施手段の強化と持続可能な開発のため
のグローバル・パートナーシップの活性化

SDGsの特徴

「ゴールの達成」に関する考え方

- ▶ 「誰一人取り残されることがない」(No one left behind) : 全ての人にとって実現していなければ達成とは認められない
 - ▶ 貧困の「削減」ではなく「根絶」が目標
- ▶ 持続可能な開発の3側面(経済・社会・環境)に関する課題が、初めてひとつの目標に統合された
 - ▶ 新しい分野: エネルギー、防災
- ▶ 全てのゴールが全ての国に適用される「普遍性」
 - ▶ 先進国、途上国の二元論ではない(cf.パリ協定)
 - ▶ 先進国も自国内での対策が必要
 - ▶ 例: 持続可能な消費と生産、持続可能なライフスタイルと教育

フォローアップの仕組み

- 15年間にわたり、実施状況を体系的にフォローアップ&レビュー
- フォローアップは、地方、国、地域、地球規模それぞれのレベルで実施
- 地球規模では、年1回の国連「ハイレベル政治フォーラム」(HLPF)によるフォローアップ
 - 毎年開催のHLPFは、4年に一度は国連総会とあわせて開催
 - 2016年は7月11日~20日にニューヨークで開催
- 毎年、国連事務総長はSDGsの進捗を報告



つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト



つなげよう、
支えよう
森里川海

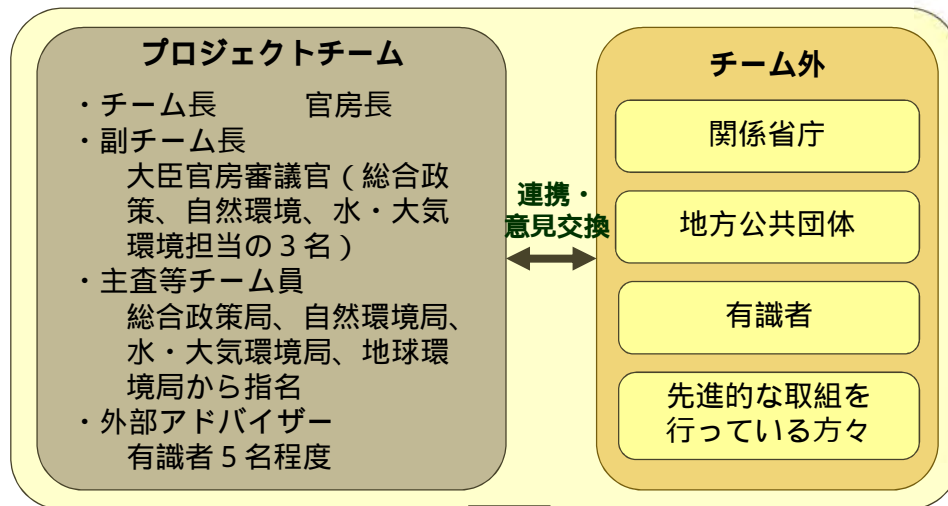
「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト

私たちの暮らしを支える「森里川海」。それが今、過度の開発や利用、管理の不足などにより、つながりが分断されたり、質が低下しています。人口減少、高齢化が進行する中で、どのように森里川海を管理し、それを通じて地方を創生していくか、官民一体となって考えていく必要があります。

環境省では、「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとして、地方公共団体、有識者、先進的な取組を行っている方々との対話や議論を行いながら、森里川海の恵みを将来にわたって享受し、安全で豊かな国づくりを行うための基本的な考え方と対策の方向をとりまとめ、全国で取組を進めていきます。

プロジェクトチームの立ち上げ

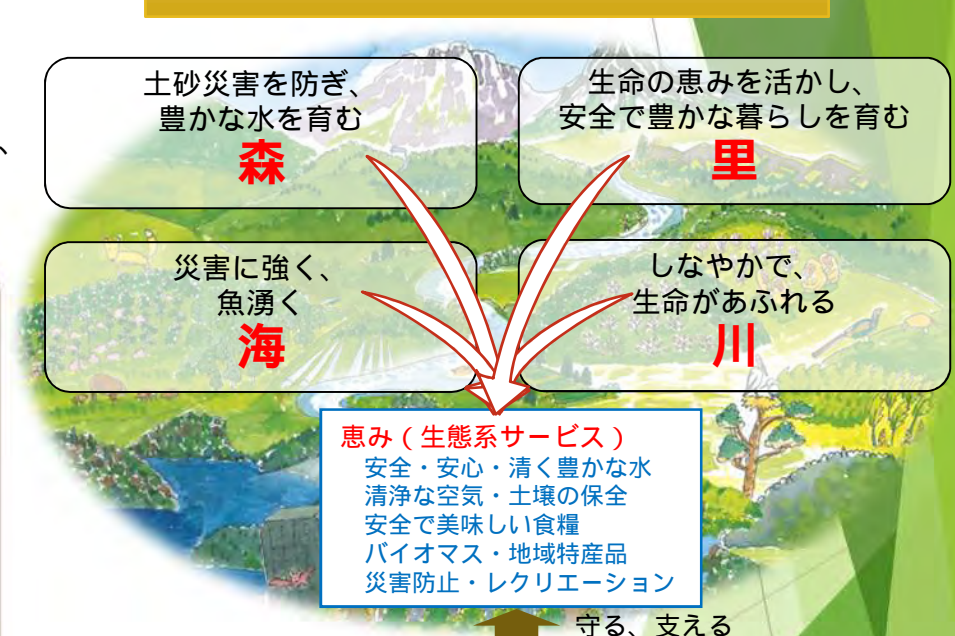
官房長をチーム長として、総合環境政策局、自然環境局、水・大気環境局及び地球環境局の職員、外部アドバイザー（有識者）で構成するプロジェクトチームを設置。また、広く地方公共団体、有識者、先進的な取組を行っている方々等と意見交換を行いながら基本的な考え方と対策の方向のとりまとめを行う。



官民一体となつてとりまとめ

プロジェクト名称「つなげよう、支えよう森里川海」について
 自然資源を象徴する「森」「里」「川」「海」を保全してつなげること、また、それぞれに関わる人をつなげること、そして、都市部に住む人たちも含めて国民全体で「森里川海」の保全とそれに関わる人々を支えることを示している。

私たちの暮らしを支える森里川海



自然の恵みを引き出す仕組みの構築やライフスタイルの転換

これまでの流れ

- 26年12月 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトチーム立ち上げ、第1回勉強会
- 27年1～6月 勉強会、意見交換会、公開シンポジウム等
- 6月 中間とりまとめ
- 10月～28年2月 全国リレーフォーラム、総括シンポジウム
- 28年9月 提言の公表

プロジェクトの目標

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。

森里川海で拓く成熟した社会づくり

森里川海とつながる**新しいライフスタイル**により、**地域経済の好循環**と**心と体が満たされる真に豊かな暮らし**を実現し、新たな未来を描いていくことが必要

恵みを活用
地域経済の
好循環

- 再生可能エネルギーの活用で地域循環を回す
- 個性ある風土づくりで交流人口を図る
- 少量多品種、高付加価値化の一次産品づくり

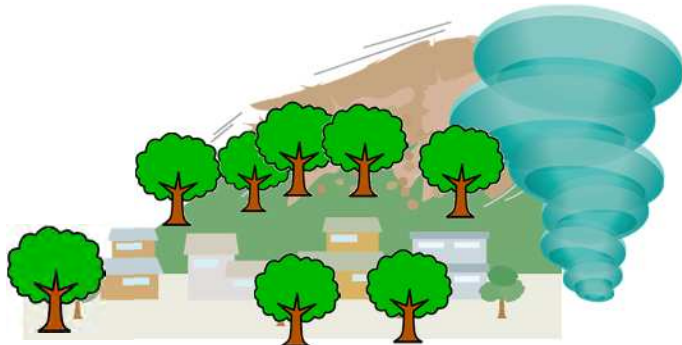


地域の産品(山菜)



バイオマス発電

- 生態系を活用して防災減災を図る



- 安心・安全な衣食住を提供する



身体にも環境にも優しい商品

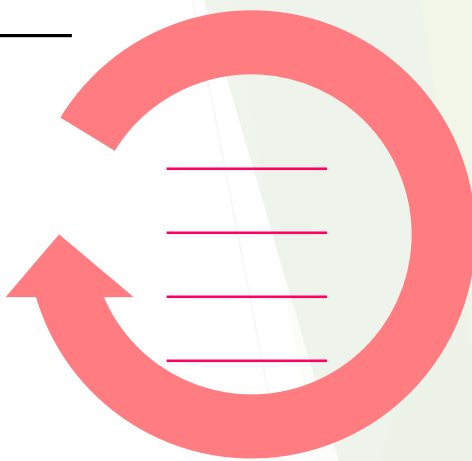


安心・安全
豊かさ

プロジェクトの今後のアクション

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す取組


- ・ **流域**における森里川海の保全・再生
- ・ 取組同士の**連携**の仕組み
- ・ 取組を支える**人材育成**
- ・ 経済・社会システムとリンクした**資金づくり**



地域で
まわる
仕組み
づくり

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会づくり

- ・ 森里川海の恵みへの意識・支える気持ちの**醸成**
- ・ **子ども達**の笑顔あふれる**自然体験の場づくり**
- ・ オシャレで豊かな**ライフスタイル**の提案



国全体で
支える
社会づくり

森里川海の恵みを五感で感じる！

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



OGAWA Organic Fes - 森里川海 × 食 × 音楽



Holistic Beauty Life
森里川海 × 美



12 つくる責任
つかう責任



3010運動



食べものに、
もったいないを、
もういちど。

NO-FOODLOSS PROJECT



3010運動とは
宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、
<乾杯後30分間>は席を立たずに料理を楽しみましょう、
<お開き10分前>になったら、自分の席に戻って、再度料
理を楽しみましょう
というもの。松本市が発祥。

